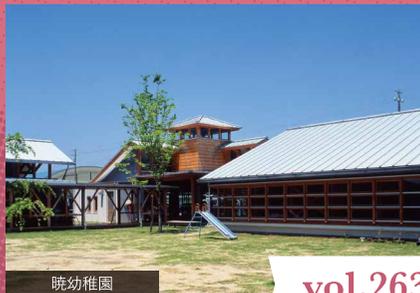


# AKATSUKI Newsletter



vol.263

卒業生へのメッセージ  
創立80周年記念ロゴマーク決定  
学園報 電子版へ一本化



暁学園報 2026 春号

四日市大学 / 四日市看護医療大学 / 暁高等学校 / 暁中学校・高等学校 / 暁小学校 / 暁幼稚園

## 式典のお知らせ

### 卒業(園)式

四日市大学	3月16日(月)13:30～	都ホテル四日市
四日市看護医療大学	3月10日(火)10:00～	都ホテル四日市
暁高等学校(3年制)	3月2日(月)10:00～	暁高校体育館
暁高等学校(6年制)	2月28日(土)10:00～	暁中高体育館
暁中学校	3月19日(木)9:30～	暁中高体育館
暁小学校	3月12日(木)10:00～	暁小学校体育館
暁幼稚園	3月18日(水)10:00～	暁幼稚園ホール

### 入学(園)式

四日市大学	4月3日(金)13:30～	四日市大学3号館
四日市看護医療大学	4月2日(木)10:00～	四日市大学3号館
暁高等学校(3年制)	4月9日(木)10:00～	暁高校体育館
暁高等学校(6年制)	4月8日(水)10:00～	暁中高体育館
暁中学校	4月8日(水)13:30～	暁中高体育館
暁小学校	4月7日(火)10:00～	暁小学校体育館
暁幼稚園	4月10日(金)10:00～	暁幼稚園ホール



[学園報 春号 vol.263]

発行日 / 2026年2月20日

発行 / 学校法人暁学園

〒512-8538 四日市市萱生町238 TEL 059-337-2345

学園ホームページ <https://www.akatsuki.ed.jp>



暁学園公式キャラクター  
アルパちゃん

# 信頼を築く対話の力学

— 21世紀における人間的能力



暁学園 理事長

## 喜岡 渉

卒業おめでとうございます。皆さんはこれまでの学びの場を離れ、大学や社会という新しいフィールドに踏み出します。その中で、ぜひ大切にしてほしい力があります。それは「相互理解を深める対話力」です。

学園での学びは、知識を得るだけでなく、異なる視点や価値観に触れ、議論を通じて思考を鍛える営みでした。これから社会に出ると、さらに多様な背景を持つ人々と協働する機会が増えます。そのとき、単なる情報交換の会話や、意見を押し通して相手を説得するようなディベートではなく、互いの理解を深め、共に新しい価値を創造する対話が求められます。対話は相手との違いを大切に、価値観をすり合わせて行く、時間のかかる面倒くさい営みです。

学問においても、正解は一つではありません。異なる理論やアプローチを尊重し、問いを重ねることで新しい知が生まれます。社会も同じです。異なる立場や考え方を受け入れ、共通の目的に向かって合意形成を進める力が、組織やコミュニティを動かします。AIやデジタル技術が進化する時代だからこそ、人間にしかできない「信頼を築く対話」が、最大の価値を持つのです。

そのために、①傾聴すること。相手の言葉の背後にある背景や意図を理解しようとする姿勢が、信頼の基盤になります。②批判ではなく建設的な問いを立てること。違いを否定するのではなく、問いを通じて議論を深めることで、学びと協働の質が高まります。③論理的かつ誠実に自分の考えを伝えること。相手の理解を助ける説明力は、社会での信頼を築く力となります。の三つを常に意識してください。

卒業はゴールではなく、commencementすなわち新しい学びのスタートです。社会で直面する課題は複雑で、単独では解決できません。だからこそ、相互理解を基盤とした対話力を磨き続けてください。それが、皆さんのキャリアを支え、未来を切り拓く力になります。

対話を恐れず、知を共有し、信頼を築き、未来を共に創る人になってください。

## 総合知で拓く未来へ ー学位授与に寄せて

四日市大学 学長

### 喜岡 渉

学位の授与おめでとうございます。

今、私たちの社会は急速な情報技術革新により、大きな転換期に入っています。ソフトウェアロボットやAIによる業務自動化はどんどん進んでいますが、持続可能な社会の実現や多様な幸福well-beingを支える課題解決は、情報技術だけでは不可能です。必要なのは、既存の常識や慣習を超えた新しい総合知です。

総合政策と環境情報を学んだ皆さんには、この複雑でグローバルな課題に挑む大きな役割があります。地球温暖化の抑制やカーボンニュートラルの実現に向けて社会全体の構造転換を図るGX、スマート社会を実現するDXにおいて、社会課題の抽出と科学技術の社会実装には総合政策学部の見識が、科学技術による解決策の提示には環境情報学部の見識が不可欠です。両者の協働こそが、未来を切り拓く鍵となります。

特に、大学4年間に培ったコミュニケーション力と、今ないものを構想するデザイン力は、社会に出てからも課題解決力、人とのつながりを築く力、そして提案力として存分に発揮されることでしょう。

## 今世紀後半の医療は？

今世紀もすでに4分の1が過ぎ、世の中の動きが加速しています。医療の分野でもAIの登場によって医療専門職の業務が大きく変わろうとしています。コンピューターは確かに前世紀の後半から医療に導入されることで業務の効率化、正確な診断、データの保存と利用に大きく貢献しました。

21世紀の後半を迎える頃に従来のICT技術とは質的に異なるとされるAIが医療をどう変えるのかを予測することは難しいと感じます。そんな中で医療従事者は現場で何をするのかといった問いかけを改めてしなければなりません。

医療というものが歴史に登場してから今日まで患者さんと医療従事者という人間と人間との間に行われる行為であることは説明を要しない自明のことでした。AIが医療を変えていく中でも、医療の根幹とされていたアナログの手法を用いた方法論の重要性は変わることはなく、むしろ今後見直されていくことでしょう。これから医療の現場に飛び込んでいくみなさんにはAIの奴隷になることなく、人間としての個性を伸ばし、AIを駆使しながら患者さんはじめ地域に暮らす人々の幸せとは何か、生きがいは何かを考え、今世紀後半の医療をより人を大切にするものとして築きあげてくださることを期待しています。



四日市看護医療大学 学長

柴田 英治

## 卒業を迎える皆さん、 そして保護者の皆さまへ



暁高等学校 校長

生駒 裕

まもなく卒業の日を迎えるにあたり、現3年生の皆さん、そしてこれまでお子さまを支えてこられた保護者の皆さまに、心よりお祝いと感謝を申し上げます。

3年間の高校生活で経験した学習、行事、部活動、そして進路選択に向き合う日々は、決して容易なものではなかったと思います。その一つ一つが、皆さんを次のステージへと導く確かな力となっています。

これから皆さんは、それぞれ新たな道へ進んでいきます。必ずしも第1志望の進路ではない場合もあるでしょう。しかし、その道もまた、皆さんが歩むべく導かれた一つの出発点です。大切なのは、与えられた環境の中で何を学び、どのように努力を重ねるかです。思い通りにいかない経験こそが、人を強くし、視野を広げ、後の人生で大きな意味を持つことも少なくありません。

保護者の皆さまには、これまでのご理解とご支援に深く感謝申し上げます。暁高校は、卒業後も皆さんの歩みを心から応援しています。

## 皆さんに期待すること

卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。皆さんに私からの餞の言葉を贈らせていただきます。

終わりの見えないロシアのウクライナ侵攻、米国のベネズエラへの軍事介入等、世界は増々混沌とし、激動しています。変化の速度も振幅も更に大きくなることが予想されます。

これからの社会を担う皆さんに期待するのは、変化に翻弄されるのではなく、それを見極め、むしろ変化をチャンスと捉えて積極的に行動できる人になって欲しいということです。そのためには、柔軟な思考で挑戦を続ける、多様な他者と協力できる、本質を見抜き展望をもって活動できるなど、様々な力を高めていく必要があります。次のステージに進まれても学びを続け、あなたの個性をもって社会に貢献されることを期待しております。

皆さんの幸せで実りある人生を心より祈念します。



暁中学校・高等学校 校長

高木 達成

## 意欲と行動が今を変える



暁小学校 校長

あきら

相馬 哲

ご卒業おめでとうございます。

皆さんはこの6年間で、心も体も大きく成長しました。この自分の成長を心から喜んでください。

皆さんとの思い出で強く印象に残っていることがあります。それは、運動会の応援合戦です。「運動会を盛り上げたい」との思いから、今年度応援合戦が新たに追加されました。どのチームも初めはなかなか声が出なかったり、揃わなかったりと苦戦しました。しかし、6年生が粘り強くリードし、チームの心をついにまとめていきました。運動会当日は、どのチームも力一杯に練習の成果を発揮し、見事な応援を披露しました。皆さんの意欲と行動が運動会を変えたのです。

皆さんはこれから中学校という新たなステージに進みます。時には苦しいこともあるでしょう。しかし、どんなときでも希望を持ち続け、意欲を持って歩んでほしいと思います。その向こうに、きっと素晴らしいことが待っていますから。皆さんは、みな輝く星なのです。皆さんの未来が素晴らしいものになることを心から願っています。

## 自分の弱さを受け入れる勇気を

正義の味方「アンパンマン」は、困っている人がいると、どこへでも助けに飛んでいきます。とても強そうに見えるアンパンマン。でも、彼には弱点があります。お腹を空かせている人がいると自分の顔をちぎって分けてあげます。そうすると力が弱くなりしょんぼりとした状態になってしまいます。

こんな時に登場するのがバイキンマン。力が弱くなったアンパンマンを負かしてしまおうとするのです。でも、アンパンマンにはたくさんの「なかま」がいます。アンパンマンの力を回復させようとジャムおじさんが新しい顔を焼いてくれたり、なかまたちが焼きあがった顔を運んでくれたり、力が弱っているときには敵から守ってくれたりします。

アンパンマンは、自分の弱さを隠すことなく受け入れながらも最後まであきらめずに入人を助けようとします。人は強くなろうとする時、他の人に弱いところを見せてはいけなしいと思ってしまうことがあります。自分の弱さを認め、なかまに助けを求めることは恥ずかしいことではありません。

これから、皆さんは小学校へ進み、楽しいこともあれば、困ることや元気をなくしてしまうこともあるかもしれません。そんな時は、アンパンマンのように勇気を出してなかまを頼ってみてください。なかまを信じ助け合うことが本当の強さであり、解決への近道になります。なかまとともに楽しい小学校生活を送ってください。

ご卒業おめでとうございます。



暁幼稚園 園長

近藤 まり

# 暁学園 創立 80周年に 寄せて

## 本年6月20日、暁学園は創立80周年を迎えます。

時代の先を見据えながら歩んできたその歴史は、多くの先達、卒業生、ご家族、そして関係者の皆様によって紡がれてきました。これまで賜りましたご支援に心より感謝申し上げますとともに、暁学園の歩みをここに振り返ります。

### 設立の発端 ～宗村社長、校舎を失った公立校を私費で支援



宗村佐信社長(初代理事長)

1945(昭和20)年の秋、四日市市内の学校は戦災によりほとんどが焼失していました。四日市市立北高等女学校(現四日市高等学校の前身)も教室不足に悩まされており、鷲野義俊校長と永戸定一教頭は、富洲原に本社と工場を構える平田紡績の宗村佐信社長を訪ね、同社所有の寄宿舎の一部を校舎として借用したいと申し入れました。

宗村社長は女学校の現状を自ら確認するため、現地を訪れました。そこで目にしたのは、血色の優れないモンペ姿の生徒たちが、狭い校舎で懸命に学ぶ姿でした。社長は、戦後復興を担う若者に少しでも良い教育環境を提供したい、戦時中に動員学徒として労苦を重ねた若者を労いたい、そして女学生たちに二度と戦争を繰り返さないという平和への信念を学んでほしいという思いから、申し出を承諾。私費で教室を改造・整備し、10教室分を提供しました。これが暁学園の源流となります。

### 暁学園の設立 ～女性の社会進出を支える私学教育

寄宿舎の貸与をきっかけに、宗村社長はかねてより抱いていた教育への情熱を行動に移しました。平和で民主的な日本の復興には、女子教育の充実による男女平等社会の実現が不可欠との信念のもと、吉田勝太郎四日市市長と協力し、県下初の私立女子高等教育機関の設立に取り組みました。

「学園設立の趣意書」などの膨大な申請書類は、宗村社長や吉田市長をはじめとする設立発起人10名によって作成されました。学園名は、終戦直後の「暗い時代に明るい光を」という願いを込めて「アカツキ(暁)」と名付けられました。

1946年3月30日に文部省より設立の許可を受け、同日には三重県知事から幼稚園設置の許可も得て、同年4月に暁女子専門学校と暁幼稚園が開学しました。私学の祖・福澤諭吉を敬愛した宗村社長の教育への思いが、ここに具体的な形として結実しました。



設立当初の暁学園

### 総合学園の完成 ～「人間たれ」の理念のもと、一貫教育を実践

1948年には暁小学校と暁中学校が開学し、創立2周年を記念して学園歌と校章が制定されました。1949年には暁高等学校が開校、1950年には学制改革により暁女子専門学校が暁学園短期大学と改称されました。

また、五嶋考吉初代学園長は、総合学園として一貫した教育理念の必要性を唱え、1950年に学園綱領「人間たれ」が制定されました。これにより、現在に至る暁学園の教育の根幹が築かれました。



五嶋学園長

## 伊勢湾台風の被害 ～未曾有の危機を、理事長のもと一致団結して克服

学園が発展を遂げる中、1959年9月26日、伊勢湾台風が東海地方を襲いました。満潮と重なったことで伊勢湾周辺は高潮や浸水、洪水の被害を受け、学園のある天力須賀でも堤防が決壊し、海水が校舎に流れ込みました。

幸いにも台風の最接近は夜中だったため、生徒の被災は避けられましたが、校舎は授業ができる状態ではありませんでした。翌日からの復旧作業には、生徒と教職員が連日泥まみれになって取り組み、2週間後には授業を再開することができました。



復旧作業

## 創立20周年目前の大移転 ～高台への移転、暁の第二章へ



萱生城址(1960年頃)

1960年代に入り、国内経済の成長と人口増加により、学園の入学者数も増加。天力須賀キャンパスは手狭となり、また伊勢湾台風による被害もあって、学園の校舎移転が計画されました。

1962年に小学校が時田へ、1965年に中学校・高校・短期大学および学園本部が萱生町城山(萱生城跡)へ移転し、学園の新たな歩みが始まりました。

## さらなる発展へ ～中高一貫、男女共学、大学開学を実現した平成期

開校当初より多くの卒業生が公立高校へ進学していた中学校では、1983年に中高一貫制がスタートし、中高6年間を通じた一貫した教育方針のもと、学園教育のさらなる深化が図られました。1988年には、四日市市との「公私協力方式」により四日市大学が開学し、全国初の画期的な私立大学経営の事例として注目を集めました。

また、開校当初は共学であった高等学校は、40年以上にわたり女子校として運営されていましたが、1993年には少子化対策の一貫として共学制を復活させました。さらに、医療の高度化に対応した人材育成の必要性を見据え、四日市市との連携のもと、2007年には四日市看護医療大学を開学しました。



萱生キャンパス

## 創立100周年を見据えて ～AI時代こそ「人間たれ」の哲学を



新教育棟

暁学園は、幾多の困難を乗り越えながらも、学園綱領「人間たれ」の精神に基づく教育を実践し、幼稚園から大学までを擁する総合学園へと発展してまいりました。

創立100年まで、いよいよ残すところ20年。創立者・宗村佐信が予見していたように、「世界情勢や社会環境が一層の複雑さを増す現代において、「人間たれ」の理念はますますその輝きを増しています。暁学園は、確かな教養と豊かな人間性を育み、激動の時代をしなやかに生き抜く人材の育成を目指して、創立100周年に向けて学園の総力を結集し、これからも伝統ある暁の歴史を力強く紡いでまいります。

## 創立80周年記念ロゴマークが決定しました!

本学園は、今年で創立80周年を迎えます。この節目にあたり、学園創立の趣意や教育理念をより多くの方に知っていただき、地域に親しまれる学園として80周年を盛り上げていくために、「創立80周年記念ロゴマーク」を募集しました。対象は、在校生・卒業生・教職員などの学園関係者です。

応募総数30点の中から、最優秀賞および優秀賞に選ばれた作品をご紹介します。



暁高等学校 1年7組  
小林 優日さん

### 作品に込めた想い

「暁」という漢字と「80」を組み合わせ、学園の伝統と温かみを感じられるシンプルなデザインにしました。朝焼けを思わせる温かみのあるグラデーションは、暁という名が持つ前向きなイメージと、新たな未来へ進む学園の姿を表現しています。また、学園綱領「人間たれ」をはじめとする代々受け継がれてきた精神を、漢字のシンプルな造形で表現しました。



暁高等学校 2年5組  
早川 綾音さん

### 作品に込めた想い

このロゴマークを制作するにあたり、暁学園のマークに加えて、公式キャラクターであるアルパちゃんを活用したいと思いました。暁高校での生活の中で、アルパちゃんのお可愛らしさをもっと多くの人に知ってもらいたいと思うことが度々ありました。そこで、80年という重厚な歴史をイメージしつつ、アルパちゃんを中心に、暁学園のマークを花飾りのように散りばめ、可憐でおしゃれ、かつ優雅な雰囲気のあるロゴマークを目指して制作しました。

また、暁小学校においても児童たちが「創立80周年記念ロゴマーク」の制作に取り組んでくれました。未来を担う子どもたちが描いてくれたロゴマークは、どれも自由な発想と個性にあふれ、子どもたちが感じた「学園のイメージ」や「未来への思い」がのびのびと表現されていました。その中から、いくつかの作品をご紹介します。



3年B組7番  
小川 莉玖さん



3年B組18番  
富田 琳心さん



4年B組7番  
奥野 つばささん



4年B組15番  
高瀬 絢子さん



4年B組17番  
田中 理愛さん



4年B組23番  
兵藤 瑞吉さん



5年A組7番  
桑原 いづみさん



6年A組13番  
川北 秀一郎さん

## 四日市大学 &amp; 四日市看護医療大学

## 消防団協力事業所表示証の交付式

四日市市消防本部と四日市大学・四日市看護医療大学は2016年1月、防災に機能を限定した学生消防団を結成しました。立ち上げ時は、四日市大生7名と看護大生3名でのスタートでしたが、現在では四日市大生9名と看護大生10名および教員4名が活動しています。入団後に応急手当指導員の資格を取得し、平時には防災啓発と救命指導にあたります。そして、大規模災害発生時には避難所と災害ボランティア・センターの運営支援にあたります。大学として消防団の活動支援への貢献が認められ、2025年12月に、四日市市消防本部より消防団協力事業所表示証の交付を受けました。2007年4月に制度が始まって以来、名だたる事業所が名を連ねる中、四日市大と看護大が13・14番目の事業所となりました。



四日市大学



四日市看護医療大学

## 暁学園 × SDGs × 「人間たれ」

利他的精神で社会に貢献する学園を目指して

人間たれ

### ■創立当初から「持続可能な社会のために」取り組んできた学園

国際連合が設立された翌年の1946年、日本が平和で民主的な文化国家となるために真に必要なのは、豊かな教養を育む質の高い教育であり、それによって女性も活躍できる男女平等の社会が実現する——その信念のもと、宗村佐信初代理事長と吉田勝太郎四日市市長の協力により暁学園が創立され、県内初の女子高等教育機関となる暁女子専門学校が開校しました。

学園と同時期に創設された国際連合が、2015年に採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」では、「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」を提唱しました。その中の「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」「平和と公正をすべての人に」「パートナーシップで目標を達成しよう」といった目標は、暁学園が設立当初から掲げてきた「質の高い教育」「男女平等」「平和希求」と、そして四日市市との「パートナーシップ」と深く重なります。

暁学園の80年にわたる歩みを振り返れば、その実践の積み重ねこそが、持続可能な社会の実現に貢献してきた歴史であるといえるでしょう。

### ■学園報、電子版へ一本化。これからも、つながる情報を

長年にわたり、紙面版と電子版の両方でお届けしてきた学園報ですが、2026年度より電子版のみに一本化することとなりました。この決定は、環境への配慮(SDGsの観点)に加え、情報発信のあり方を見直し、より柔軟で持続可能な形を模索していくための取り組みの一環です。電子版はこれまで通り、学園のホームページにてご覧いただけます。

紙の手触りやページをめくる楽しさを大切にくださった皆さまには、少し寂しさをお感じになるかもしれませんが、それでも、これからも変わらず、学園の「今」をお届けしたいという想いは変わりません。

新しいかたちとなる学園報も、変わらぬご愛読を賜りますようお願い申し上げます。



## 学生による開発商品「紀伊のじゃばらシロップ」販売開始

2024年学園報 [vol.258] でもご紹介した、レディオキューブFM三重×紀北町×卯冨ふわあ〜むとのコラボ商品が完成し、去る10月25日開催の四日市大学の大学祭から正式に販売を開始しました。活動開始当初は、新しいスイーツを開発しようと考えていた学生たちでしたが、紀北町に実際に何度かお邪魔し、その空気や地元の料理を味わううちに、「この地で育てられている“じゃばら”を使った商品にしたい!」との思いが強くなり、最終的には商品名「紀伊のじゃばらシロップ」の開発となりました。

大学祭での評判もよく、その後の売れ行きも順調です。暑い時期には水や炭酸で、冬にはお湯で割って飲むのもよし、唐揚げの下味付けや白身魚のムニエルなどに使うもよしと色々な使い方ができます。皆さんも是非ご賞味ください。



学生たちが主体的に「じゃばらシロップ」を使った料理や飲み物のレシピをInstagramで配信中



## 『社会調査実習』四日市市自動運転実証実験への学生参加

『社会調査実習』では、地元・四日市市を対象とした調査を実践しています。12月の授業では、四日市市内の自動運転移動サービスに係る実証実績のある株式会社マクニカと、四日市市役所都市整備部の方々にご協力を頂き、大学での出張講義や四日市版MaaS/デジタルマップに関する意見交換、自動運転EVバスへの試乗を行いました。学生たちは、現場の皆さんからのお話を伺いながら、自分たちが行った調査で得られたデータが持っている意味や社会調査はどのように社会に活かされていくのかについて考えていました。



## 実践力を育む看護技術の統合演習

12月19日、2年次科目「看護技術論Ⅲ」において、患者の状況を踏まえながら安全・安楽・自立を意識した一連の看護援助を実践できる力を育むことを目的に、これまでに学修してきた看護技術や知識を統合する演習を実施しました。本演習では、持続点滴および持続導尿を行っている患者を想定し、ベッドから車いすへの移乗、車いすでの足浴、再びベッドへ戻るまでの一連の援助にグループで取り組みました。学生は看護師役や患者役などの役割を分担し、それぞれの立場から援助の目的や根拠、安全への配慮について言語化しながら実践しました。

演習後は、教員からの講評やフィードバックを受けて振り返りを行い、自身の課題や今後の学修の方向性を明確にしていました。技術の正確さだけでなく、患者の状態を観察し変化を予測する力や、チーム内で協働しながら援助を進める力など、看護の実践力を総合的に育む学びの場となりました。



## B館3階 学修スペースがリニューアルしました

2025年10月に、B館3階の学修スペースが新たにリニューアルいたしました。教育後援会や学友会にご協力を頂き、仕切り設置による冷暖房や机・椅子のリニューアルなど快適に学修できるよう整備ができました。ゆったりと過ごしやすい快適な空間となり、学生からは「勉強しやすくなった」との好評の声が多く寄せられており、多くの学生にご利用いただいています。また学修環境の名称として、学生からの提案で大学のイメージカラーや共有することの意味を込めて「オレンジコモンズ」と決めました。



## 身近な課題から未来のビジネスへ — 3年生ビジネスプランコンペ開催 —

10月31日、3学年総合探究「ビジネスプランコンペ」が開催されました。身近な「不便」や「不都合」を解決できるビジネスを提案するというコンセプトのもと、リクルートの「高校生Ring」という教材に沿って、1学期から取り組んできた活動の成果を発表しました。当日は審査員として地元企業の社長の皆様にもご参加いただきました。

最優秀賞に選ばれたのは、3年2組の「BEAUTY SPOT」でした。外出中に身だしなみを整えることができるブースを設置したいという、高校生ならではの視点新鮮で、費用面や防犯面などの課題についても具体的に検討されていた点が高く評価されました。

どのチームも大人数の前で堂々と発表し、審査員からの鋭い質問にも臆することなく、落ち着いて答える姿が印象的でした。また、聞いている生徒たちの表情も真剣で、学年全体の熱意が感じられ、さすが3年生だと感心しました。この活動を通じて興味のある学問を見つけた生徒もおり、進路について深く考える重要な機会となりました。さらに、探究活動を通して培ってきた「課題発見力」「情報収集・分析力」「協働性」は、今後一人ひとりが人生を切り開いていくための、確かな力となります。

最優秀賞



### ご協力いただいた企業様



- ・株式会社リクルート
- ・横内建設株式会社
- ・株式会社四日市事務機センター
- ・株式会社シリックス
- ・株式会社サイトウ研
- ・株式会社三十三総研
- ・株式会社佐野テック
- ・河村産業株式会社

暁中学校・  
高等学校

## Welcome to our school, MRC! — MRC(マウント・リドリイ・カレッジ)プログラムのご紹介 —



9月16日(火)から22日(月)までの1週間、姉妹校であるオーストラリアのマウント・リドリイ・カレッジ(MRC)の生徒・教員が本校を訪問しました。来日した生徒たちは本校生徒の家庭にホームステイし、授業や登下校など学校生活を共にしながら、日本の日常を体験しました。

ホストファミリー担当生徒のクラスに参加し、英語の授業はもちろん、体育の授業などにも意欲的に取り組みました。また、MRCの先生による授業も行われ、中学3年生を対象にオーストラリアの地理・文化・自然に関する英文を読み、発表やイラスト制作を行うなど、非常にアクティブな学びが展開されました。

さらに「国際学生会議」では、日本チームとオーストラリアチームに分かれ、両国の社会問題について意見をまとめ発表しました。暁小学校訪問では、小学校の先生方のご協力のもと、5年生とジャンケン列車や会話ゲームで交流を深めました。放課後には本校合唱部にも参加し、「Joyful, Joyful」を合同合唱し大いに盛り上がりました。

プログラムを通じて、多彩な交流を通して国際理解を深めるとともに、生徒一人ひとりが異文化に触れ、視野を広げる貴重な機会となりました。日本にしながらプチ留学を体験できる本プログラムの様子は、本校公式Instagramの動画でもご紹介していますので、ぜひご覧ください。



MRC先生の授業



ホストファミリー担当の生徒と



国際学生会議



英語の授業で音読練習



暁小学校5年生との交流会



合唱部と合同合唱



今年度、4年生は「実践的創造力」を育む探究プログラム「SCHOP SCHOOL」に取り組みました。この学習は、認知能力と非認知能力を融合させ、自ら考え表現する力を養うものです。

児童は、短い言葉で人の心を動かすコツを学び、ポスター制作に挑戦しました。対象を多角的に観察し、その魅力を「誰に・どう伝えるか」を試行錯誤する過程で、観察力や整理能力、表現力が磨かれました。

自分自身の言葉を見つけ、伝える喜びを感じながら、どの子も意欲的に、そして何より楽しく活動できたことが大きな収穫です。言葉の力を通じて、子どもたちの創造性が大きく伸びた貴重な時間となりました。



## 4年生 「届けよう、服のチカラ」プロジェクト



今年度、4年生は、上記の「SCHOP SCHOOL」に加え、「届けよう、服のチカラ」プロジェクトにも取り組みました。本企画は、ファーストリテイリングとUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)が連携した、社会貢献の心を育む学習プログラムです。前年度までは中高の活動のお手伝いをしていましたが、今年度は本校の4年生の活動として取り組みました。

児童は出張授業を通じてSDGsやリサイクルの意義を学び、その後「SCHOP SCHOOL」で培った発信力を活かして啓発リーフレットを作成しました。文化祭等で広く服の回収を呼びかけた結果、多数の方にご協力いただき、非常に多くの服が集まり、児童自ら分類・整頓を行って現地へ発送することができました。

一連の活動を通し、子どもたちは服の持つ力を再発見するとともに、自ら社会課題に貢献する一歩を踏み出すことができました。



## 暁幼稚園

## 防災教室 「きけん はっけん」



暁幼稚園では、子どもたちが地震や火災などの災害から「自分の命は自分で守る」ことができるようにと、月1回「防災学習の日」として、いろいろな場合を想定した避難訓練や防災に関する知識をスモールステップで学ぶ機会を設けています。

10月は地震・津波避難訓練を実施し、富洲原中学校の屋上まで「手すりにつかまりながら階段を上る」ことを学習しました。11月の火災避難訓練では、「煙を吸い込まないように鼻や口をおさえて逃げる」ことを学習しました。12月は、それぞれのクラスで、今まで学習したことを絵本や紙芝居、担任の話など、学年に応じた方法で振り返りました。

そして、1月は「きけん はっけん」の出前授業。日本赤十字社三重県支部の方にお越しいただき、ふだんの園生活の中で地震が起きたら、どのような行動をとるのが正しいのかについてみんなで考えました。1枚の絵を見て、正しい避難の仕方には「○」、正しくないものには「×」をするというクイズ形式で行いました。子どもたちは、ただ「○」「×」を言うだけではなく、その行動がなぜ間違いないのかについて、自分の言葉で詳しく伝えることができていました。これは、日頃の防災学習の成果だと実感しました。講師の方から「暁幼稚園の子どもたちは、みんなよく考えて答えられていますね」「みんな一生懸命考えてくれてうれしかったです」とお褒めの言葉をいただき、子どもたちも満足そうでした。

暁幼稚園では、災害に備えて3日分程度の備蓄品(非常食や飲料水、炊き出し用の道具、簡易トイレ、おむつ、寒さを防ぐアルミシートなど)を富洲原中学校3階の防災倉庫に保管しています。

これからも、大切な子どもの命を第一に考え、防災教育と環境整備の両面から、子どもたちの命を守っていきたくと考えています。

